

無人の地

年休無休の

立て看板

伊東 功(本宮市)

## ♪「今日の日はありがとう」

### 「コロナ禍・第二波に備えた医療体制を

森山良子が歌った「今日の日はさようなら」を「今日の日はありがとう」と替えてみた。幸いにして東北ブロックは、この間、感染者を出していない。また福島県においても5月8日に81人目の判明が明らかになって以来ゼロが続いていた。しかし残念ながら82人目の陽性者を出してしまった。幸いにして軽症であり一日も早い全快を祈念したい。そして「今日の日はありがとう」、「明日の日」もと願うところである。しかしウイルスはどこに潜んでいるかはわからない。また免疫力を落ちている身体は容易にウイルスを受け入れるとも聞いている。油断することなく健康管理に努めたいと思う。

今般6月号の「ニュースを読んで」のコーナーに参加くださいました方が沢山おられました。嬉しいことである。その中に小学一年の時に結核と診断され闘病生活を送られた方の文章がある。

(4ページ上段)

私にとってもこの結核については小学校5年の記憶がある。時は敗戦の翌々年、結核の治療薬、ストレプトマイシンを進駐軍から取り寄せたとのニュースがあり、合わせて私の近くの病院もその薬を取り寄せたことが報じられた。患者がいつぱいな

り、その病院の前は避けて通った。いつしかその病院は「結核病院」という呼称となったことを記憶している。また私が入社した会社の勤務係長は復員者であり長い結核の闘病生活を経験している。1961年(昭和36年)「恵みの制度」である「国民健康保険制度」が実現した。その方はその制度によって「高額治療薬・ストレプトマイシン」を受けることができ、以来保険証の保管場所は、自宅の「神棚」ということになっていると私に述べられた。

### 医療従事者・感染者への偏見と差別をなくす

新型「コロナウイルス」もまたその名の通り、コロナウイルスの一種であると言われ、これまで人に感染するコロナウイルスには7種類がある。そのうちの4種類は一般的な風邪の原因の10%から15%(流行期は35%)を占めておりほとんどの場合は軽症に終わる。残りの2種類は2002年に発生したSARS(重症急性呼吸器症候群)と2012年以降発生しているMERS(中東呼吸器症候群)があり、7番目が今般の「新型」ウイルスである。未だ治療薬もワクチンの開発も見通しがつかない。さらに感染力が強いのに無症状や軽症で終わる人が多いという。その一方で急速に重症化し、死に至ると人も多いと言われている。そこに人々の不安を生み、その不安が感染者や接触者に、さら

に治療にあたる医療従事者とその家族に対する偏見と差別を生み出している。悲しいことである。

今後も「OB・Gニュース」は、次のことを一環して提起をしていきたい。皆さんの感想を求めたい。

■ 疑わしい患者の「全員検査」を実現させるため 検査施設の拡充を !!

■ そのためにも「検体採取医療機関(従事者)の充実と防護(防護衣・マスクなど)の保障を !!

■ 安全な検体採取とPCR検査を一体とした「ドライブスルー方式」の採用を !!

■ 感染者の早期発見と医療機関(地域クリニック)の崩壊を防ぐためにも、「相談センター」から独立した民間「発熱外来診療所」の設置を !!

■ 感染者の症状に応じた指定医療機関と軽症者の経過観察受け入れ体制の整備と充実を !!

今後も読者の皆さんの心に寄り添いながら問題提起を続けたいと思います。またコロナ禍の地域にあつてニュースの現地配布をされておられる皆さんに心から感謝いたします。(文責・降矢)

### 【お断わり】

ニュースのページに「ニュースを読んで」のコーナー設けてきました。今般6月号のそれに対する参加者は今までになく多く、参加者のご意思を尊重し「特集号」として編集をいたしました。字数の関係で一部を省略しました。また情勢に合わない内容になる場合もあります。ご了承ください。(事務局)



■ 今月も、検察庁法改正断念という話題から、発熱外来、PCR検査という身近な問題にまで話が及び、とても読みごたえがありました。検察庁法の改正についてはこれまで発言を控えていた人たちが動き出し、それに背を押されるようにして検察OBが発言したのが大きかったと思います。たぶん、水面下で大きな政治意識の変化が起きつつあるのではないのでしょうか。ひとつは、誰もが「自粛」を求められ「巣ごもり」になってから、組織や企業、職場の人間関係がそれほど大事ではなく（もちろん、依然として大事なのですが、過度にそれを自分から強いることがなくなったという意味です）、むしろ家庭の日常という足元に、多くの問題があるということに多くの人が気づいているからではないでしょうか。今回のコロナ禍では、パートや派遣の人の多くは雇い止めを経験し、医療や介護、物流、運送、スーパーの人々は感染の不安に直面しながら働き続け、大企業の人たちも業績悪化の打撃を受け、その影響から無縁な人は少ないだろうと思います。この先のことを考えれば、「その場しのぎ」「先送り」の惰性に安住してきた安倍政権では、将来がもたないことを人々はリアルに実感しているのだと思います。振り返れば、アベノミクスの成長戦略は、今回、ここごとく裏目に出ています。東京五輪を頂点とする観光立国は当分復活の兆しはありませんし、1-Rも頓挫。頼みの自動車産業も厳しい壁にぶつかり、成長エンジンは空回

りしています。GDPの柱である個人消費が落ち込み、設備投資も減速となれば、さらに消費を手に控える負のスパイラルが予想されます。これは、安倍政権が、ほんとうの社会の問題に立ち向かわず、夢のような未来像を描いて、問題を先送りしてきたツケが回ってきたでしょう。本当の問題は、少子高齢化であり、社会的な格差の増大、子育ての困難、非正規労働者の増加、正規労働者の過剰労働にあつたはずは、コロナ禍は、そうした社会問題を容赦なくあぶり出し、私たちのくらしにリアルな問題を突きつけました。こうした現実にいる人々に、不利益や不安定がのしかかり、それに耐えることが難しいほどまでになっているのですから。コロナ禍が呼び覚ます不安は、感染による生命の危険ばかりに原因があるのではないという気がします。自分たちの将来だけでなく、子どもや孫たちの世代がこの先、生き延びていけるのか。その不安が、根源にあるのだろうかという気がします。土曜リリースのコラムにも書きましたが、今回、欧州で被害の大きかったイタリア、スペイン、フランス、英国は、この間、社会資本への投下を削減し、それが医療崩壊、介護崩壊につながったのだらうと思います。見かけの成長ではなく、足元の医療、介護、教育、物流、地元産業の足腰を鍛え、地域の安心・安全を取り戻すことが何より大切な時代だと思えます。その意味で、やはり地方分権、手堅い磁場産業の育成、医療や介護の見直しが必要だらうと思います。

■ 今回のコロナ禍、高齢者基礎疾患のある方には

細心の注意を払って過ごしていただきたいと同時に、検査をしつかりやって元気な人たちは経済活動を続けてもらいたいと思っています。日本は検査が行き届かず、国民の努力で緊急事態宣言を収束させることができたのに、安倍はまるで自分の手柄のような演説には吐き気がしました。福島選出の森大臣がよいように安倍の尻拭いさせられているのも恥ずかしいし、みつともない。彼女のためにもはやく辞任して欲しいときのう事務所に電話したところだれも出ませんでした。情けないですね。福島は原発事故処理に加え作秋の台風19号の被害からまだ立ち直っていないのに今回のコロナ禍、前途多難です。どうぞ少しずつ日常を取り戻し、ストレスをためないように踏ん張ってください。私もふんばります。

■ 休まずにニュースを発行されていることに本当に頭が下がります。今号の「ニュースを読んで」の中にあります投稿は、発行を続けてこられた信念が読者にも伝わっていることがよく確認できました。これこそが「継続の力」であり、「運動の原点」だとあらためて確認する思いで読ませていただきました。こうした活動の原点を大切にしている運動は、市民党の活動の運動に広げていくためにも必要なことではないのでしょうか。コロナ騒動の中で、検察庁法改正案が当事者である黒川東京高検検事長の麻雀事件が発覚し廃案となることになりましたが、この問題に対する国民の反応はものすごいものがありました。500万件にも上るツイッターでの投稿は確実に政治を動かし、さすがの安倍総理も危機

感をあらわにしたものでした。これまでも世論の動向を無視し続けてきた安倍総理は、「コロナ対策についても独りよがりの政策をぶち上げ、その都度多くの批判があるにも関わらず、いわば独断的なことを強行してきました。黒川問題についても「定年延長の最終的責任は任命権者としての私にある」とはいうものの、どついう責任を取るのかについては全く語らず、野党の追及には総理をはじめ各閣僚はまともに答えられなかったではないでしょうか。「コロナ「危機」のどさくさにまぎれ、反対の多い検察庁法改正案を強引に成立させようとしたことを目のあたりにした多くの国民が真剣に反対の声を上げ、安倍政権の横暴を許さなかったことはまさに歴史的出来事でありました。政府の「コロナ対策は「コロナ対策特措法」が作られてから、「自粛」に始まり、「緊急事態宣言」が発動され不要不急の外出制限をはじめ国民生活に大きな影響が出ましたが、こうした施策は、責任の所在は政府ではなく個人の責任に帰するものであり、個人の自粛し責任を負わせられるというものであります。この間の一連の政府の政策はすべてこの考え方に基づくものであります。多くの自営業者に営業保障を伴わない自粛の要求は「コロナで死ぬか、経済的に死ぬか」を選べというものに等しいものでしょう。まさに新自由主義的自己責任論ではないでしょうか。安倍政権の極め付きは、2月に発表した「学校の「斉休校」であり「アベノマスク」のように官邸だけですべての物事を決めるという非常に危ないやり方であります。この間のことを

取り上げればきりがあません。しかも、責任を個人に帰せるという全くもって民主主義とは程遠いものです。これも私たちの力の弱さを示す一面でもあることを自省しています。

■この様な状況下での取材を含め校正ご苦労様です。コロナにまみれながら、検察法案の採決を図った安倍さんは飼犬(黒川氏)に噛まれたとはこの事ですね。政権の(安倍)の支持率も30%を割り込みレイムダック状態です。本来ならば総辞職、解散総選挙に持ち込みたいのですが「コロナ禍でままならずですね。引きこもりも限界ですが2波、3波も考慮しなければならぬし大変ですが、日本人の真面目さでもう少し頑張りましょう。

■充実した内容に敬服しつつ、毎月、毎回、貴重な「OB・Gニュース」をご送付頂き感謝申し上げます。「850余紙・21地区30人の皆さんによる配布活動によって支えられていることに大きな意味のあると考えます」との言葉、OB・Gの会の地道な活動に心より敬服の挨拶を送ります。かつ「OB・Gニュースこそ、同じく私にとって《原点とは何か!》との貴重な《お叱り》であり、また《励まし》でもあります。私もこの6月で86歳、でも原点を踏まえながら学んでいきたいと思っております。

■「コロナ問題に関するOB・Gニュースの視点に感銘です。現在、トリチウム海洋放出反対署名を取り組み中です。ご協力お願いいたします。

■会津は田植えも終わり新緑真つ盛りです。農家にとって繁忙期は兄弟や親族が田植え手伝いに集まり、賑いが有るのですが、今年は「コロナの関

係で、手伝いに来てもらう事も、行く事も出来ませんでした。農繁期は昔から猫の手も借りたいといわれる様に、機械化が進んでも、人の手が欲しいのです。「コロナ渦の最中に、安倍政治は検察官の定年延長に対する国民の法改定案反対の拡大の中、「種苗の自家採取原則禁止法改正」や個人を丸裸にする様な管理社会「スーパーシティ」法案などを次々に出してきました。火事場泥棒という言葉まで産み出したその最中、定年退職延長までして必要とした人物、黒川弘務検事長が賭けマージャンをしていた事が発覚し辞表を提出しました。

全国民が、「コロナによる非常事態宣言による外出自粛、子どもたちは登校も出来ない最中の出来事です。その処分は、訓告処分で退職金5,900万円とは驚きと怒りです。コロナ自粛で、職場を失い、路頭に投げ出される失業者は低所得者層に顕著に現れています。「コロナ渦の陰に隠れて甲状腺検査の先送りや汚染水の海洋投棄、国会の無様(ぶざま)な有り様に危機感を持ちます。いま「コロナ後の新しい生活様式」が取りざたされています。新しい生活とは、マスクをすることや三蜜を避ける事も大事です。しかし、経済優先の社会が、急速な環境破壊を繰り返していることに全人類は気付く事が大事だと思います。「原発と人類は共存できない」の通り、原発による環境破壊は紛れもない事実となっています。今月号(原発情報・社民党福島県連ホームページ)では、福島第一原発の事故から9年目の汚染状況と、原発建屋をはじめめとした各所に崩壊の危険が迫っている事、低レベ

ル放射能の脅威などを中心にお伝えしています。

■(1)検事長定年延長を法改正せずに解釈変更で実施しておく、その後さかのぼって適用することは、憲法改正政権として全くおかしい。アベノマスクの税金無駄遣いといい、どこか狂ってきたのではないか。まずは廃案になつてよかつたと思います。

(2)新型コロナ対策ですが、皆さんが言っておられるように検査方法・予防薬・特効薬の開発を急がなければいけない。また、新たな特効薬が開発されても、ウイルスはその都度、その薬剤に対する耐性を強化して生まれ変わるそうです。したがって開発活動は継続が基本であり、数種類を並行して進めるのが重要だそうです。つまり、開発予算を減らすことはできません。一例ですが、私は小学校1年(1950年)の遠足後に結核にかかり、5ヶ月ものあいだ、自宅で治療生活を送りました。幸い、結核菌の特効薬(ストレプトマイシン)が開発され私は助かりました。その後、結核菌はストレプトマイシンに耐性を見せるようになったため、パスやイソニアジドが導入されました(1952年)。更にその後、第3の特効薬リファンピリンが登場したそうです(1965年〜1967年)。なんともすさまじい戦いであることがわかります。また、結核患者は1992年には約80万人いたそうです。新型コロナ患者は昨日の新聞では約45万人とありました。実際はもっと多いでしょうから、結核という勝負ではないでしょうか。いずれにしろ、人力を結集しなければダメです。結核だつて復活してきていますから。(3)旧厚生省組織のやる気

無さは情けないというのが今回も印象的です。先を見て懸命に組織改革を進めて貰いたいものです。

■コロナ問題も全面解除で一段落と思いきや、大丈夫か? の不安が先行します。先刻、電話で話し合いをしました。ニュースNo.158号で提起をされている「発熱外来」の件です。3月、5月の臨時県会、及び市会でなぜわが党は取り上げなかつたのかが問われます。残念でした。

■多岐にわたる内容の実態把握と分析、その思いが伝わってきました。特に、ニュースを地域で配布されておられる「地域担当者」の方々に届けた配慮と気遣いのお手紙には感動しました。私のところでは役員会さえ開催できない状態です。集まることへの不安があります。また、教育現場の実態を教育現場からの声ということで、意見・要望も付け加え教育委員会と幾度となく、意見交換・情報提供をさせていただきました。しかし私たちの全体的な運動には結びつきません。しかし「今、現場からの声を伝えなくてどうするんだ」と。学校現場出身の議員として、子どもたちそして学校現場で働く教職員の方々などの安心、安全、笑顔につながる活動をこれからもつづけていく覚悟です。

■東京高検黒川検事長の辞任問題や、コロナ対策、PCR検査体制の拡充を主張する内容、そして850枚のニュースを17地区に30名で配布していることは全国的に見ても福島だけでしよう。素晴らしい活動です。意固地を張るように「アベノマスク」を付け続ける総理の姿が滑稽で「あなた自身が緊急事態なんだよ」とヤジを飛ばしたい気持ち

です。そのマスクもまだこちらには届きません。台風シーズンを迎えようとしています。気候大変動による災害への備えも準備しなくてはなりません。人類は共生の道を歩むのか、「○○ファースト」の孤立の道を歩むのか、試されているのではないのでしょうか。第2波に備えて、PCR検査が市内でも実施できないか。医師会と市との対策会議の設置や情報交換の場をつくること。風邪・インフルエンザ・新型コロナの仕分けとその指導。そしてコロナよろず相談所を市役所に設置する、船舶の入港者に対する対策などです。地域の労働運動も頼りにできない状況で果たして衆議院選が戦えるのか不安です。でも頑張るしかありません。共に頑張りましょう。

■コロナでは、コロナ自体よりも政府の無策にストレスが溜まるばかりです。前回ニュース以降の世界の出来事では、アメリカの警察官による黒人男性の殺害に対するデモの拡がりがありました。報道による分析では、デモにベビーブーマー世代が少ないことがあげられていました。これは検察庁法改正に抗議する日本のツイッターデモと同じ構図だと思われました。ネットを通じたこのような動きには、比較的短い文章による発信と拡散、共感の拡がりです。危険性を感じる部分もありますが、世代交代とともに市民の政治活動の形も少しずつ変わってゆくのだろうと感じました。言葉の力を信じて言い続けることしかないのだろうと思う昨今です。

